

日本地理教育学会 第72回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性

—小学校社会科における試案の作成—

日本地理教育学会第72回大会
2022年8月21日(日)一般発表102番

小谷恵津子(玉川大学)
植田真夕子(愛知県津島市教育委員会)
(株)帝国書院研究室

※この資料は、上記3者の共同研究発表資料を一部改編の上、集約したものです。

概念形成に着目した地図活用能力の系統性 —小学校社会科における試案の作成—

日本地理教育学会第72回大会
2022年8月21日(日)一般発表102番

小谷恵津子(玉川大学)*
植田真夕子(愛知県津島市教育委員会)
(株)帝国書院研究室

現状と課題

平成29・30年改訂で学習指導要領に見られた「大きな変化」

- ① 小学校社会科の学習指導要領解説に、「社会的な見方・考え方」は、小学校から高等学校までの学習を通して発展的に育成されていくものであること、また、「地図は効果的に活用することにより、位置や空間的広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うことができる」ことが明記されたこと(文部科学省, 2018a, pp.18-19およびp.143)
- ② 中学校社会科や高等学校の地理系科目の教科目標や学習指導要領解説に、「地理的な見方・考え方」を構成する視点(中学校社会科地理的分野)や地理に関わる事象を捉える際や地理的な課題を考察する際の視点(地理総合, 地理探究)の具体として、「位置や分布」、「場所」、「人間と自然環境との相互依存関係」、「空間的相互依存作用」、「地域」の5つが明記されたこと(文部科学省, 2018b, pp.32-36や文部科学省, 2019, pp.39-42およびpp.80-83)
- ③ 参考資料という形ではあるが、「社会的な事象等について調べまとめる技能」(以下、「調べまとめる技能」とする)として、小学校から高等学校までを通して育成する技能の具体例が示されたこと(文部科学省, 2018a; 2018b; 2019)

技能の名称	技能の概要	技能の育成に資する学習活動の例
① 社会的な事象等について調べまとめる技能	社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。	① 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。 ② 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。
② 社会的な事象等について調べまとめる技能	社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。	① 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。 ② 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。
③ 社会的な事象等について調べまとめる技能	社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。	① 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。 ② 社会的な事象等について、その背景や関係性を明らかにし、その本質や特徴を捉えることができるようになる。

現状と課題

社会科における地図活用や地図学習が抱える課題

- ・ 地図に関する学習やその活用は学習指導要領に重要なものと位置付けられている一方、学校教育現場では、その育成が十分とは言えない状況も見られる
→ 各学校段階の「学習指導要領実施状況調査」(実施: 小H24・25, 中H25, 高H27)の結果より、「課題があると考えられる事項」として資料や地図の活用に関わる項目があがっている(国立教育政策研究所, 2018a; 2018b; 2018c)
- ・ 学習指導要領や先行研究では、地図に関する学習やその活用を一貫して「技能の育成」としてのみ捉えており、概念形成の視点から課題の解決が考えられてきていない(小谷, 2012; 2017など)

本研究の目的

地図活用能力を育成するためには児童・生徒に具体的に何を指導すればよいのかを検討し、学校段階や学年に着目して整理し、学校教育現場での授業づくりの際に生かせるものとして示すこと

→ 「調べまとめる技能」には、地図活用に関わるものが示されてはいるものの、各学校段階をひとまとめにした形であるため、実際の授業に落とし込んで考える手がかりとしては十分とは言えない。また、地図活用の「技能」の基盤に存在する概念の形成には着目していない。

➡ まずは、小学校4年間における地図活用能力育成のための指導内容を検討し、学年と学習内容に基づいて系統性を示す一覧表(マトリクス表)の作成を試みる

技能	内容	学習指導要領	学習指導要領解説	学習指導要領解説(事例)	学習指導要領解説(事例)	学習指導要領解説(事例)
1	地図上の情報を正確に読み取る。	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1
2	地図上の情報を整理し、まとめる。	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2
3	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3
4	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4
5	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5
6	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6
7	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7
8	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8
9	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9
10	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10

技能	内容	学習指導要領	学習指導要領解説	学習指導要領解説(事例)	学習指導要領解説(事例)	学習指導要領解説(事例)
1	地図上の情報を正確に読み取る。	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1	社会科 1-1-1
2	地図上の情報を整理し、まとめる。	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2	社会科 1-1-2
3	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3	社会科 1-1-3
4	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4	社会科 1-1-4
5	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5	社会科 1-1-5
6	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6	社会科 1-1-6
7	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7	社会科 1-1-7
8	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8	社会科 1-1-8
9	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9	社会科 1-1-9
10	地図上の情報を活用し、課題を解決する。	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10	社会科 1-1-10

一覧表作成にあたっての基本的な考え方

② 学校教育現場での利用しやすさを念頭に置く

- 地図や地図を活用した学習指導に苦手意識をもっていたり、社会科学の学習指導経験そのものが浅かったりする先生方にとっても使いやすいものとするを重視
 - 小学校社会科学の学習指導要領に示された枠組み(学年、学習内容)や「調べまとめる技能」における「技能」の分類を用いて整理を行う
 - 小学校社会科学の学習指導要領やその解説に則した表現を用い、専門的な用語や言い回しは極力避ける

一覧表作成にあたっての基本的な考え方

① 地図活用能力に関連する概念形成への着目

- 調べたりまとめたりする際に地図を活用できるように何がわかっている必要があるのかを明確に意識した指導の必要性(小谷, 2017)
 - 「技能」の基盤に存在する方法に関する概念形成に着目して、指導内容やその系統性の検討を行う
- 概念等に関わる知識(「説明的知識」や「概念的知識」)の獲得に地図の活用が寄与することを意識した指導の必要性(小谷, 2012)
 - 中学校以降での「地理的な見方・考え方」につながる概念形成に着目して、小学校社会科学の学習指導要領に示された各学年の学習内容と関連付けながら、形成される概念の内容やその系統性の検討を行う

一覧表の全体構成

一覧表作成にあたっての基本的な考え方

① 地図活用能力に関連する概念形成への着目

- 調べたりまとめたりする際に地図を活用できるように何がわかっている必要があるのかを明確に意識した指導の必要性(小谷2017)
 - 「技能」の基盤に存在する方法に関する概念形成に着目して、指導内容やその系統性の検討を行う
- 概念等に関わる知識(「説明的知識」や「概念的知識」)の獲得に地図の活用が寄与することを意識した指導の必要性(小谷2012)
 - 中学校以降での「地理的な見方・考え方」につながる概念形成に着目して、小学校社会科学の学習指導要領に示された各学年の学習内容と関連付けながら、形成される概念の内容やその系統性の検討を行う

地図を活用する「技能」の基盤に存在する「方法」に関する概念

地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」(マトリクス表A)

地図を活用することを通して獲得される「内容」に関する概念

地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)

地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」(マトリクス表A)

○ 「調べまとめる技能」における分類に則して3枚で構成

- 「情報を収集する技能」《収集・選択》
- 「情報を読み取る技能」《読図》
- 「情報をまとめる技能」《作図・描図》

○ 縦軸を小学校の各学年とする

→ 小学校社会科の学習指導要領に示された各学年の学習内容や現行3社の教科書記述分析の結果をふまえ、複数の学年からなる段階も設定

○ 横軸は「ア. 地図の要素別」と「イ. 図の種類別」の2つで構成

マトリクス表Aの例(「情報をまとめる技能」の3年生の部分を抜粋)

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』 (3)情報をまとめる技能 《作図・描図》

発達段階	ア. 地図の要素別					イ. 図の種類別		
	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図>	<2. 主題図>	<3. 地形図>
小学校3年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」

地図から習得できる「社会的事象等について調べまとめる技能」(マトリクス表A)

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』 (1)情報を収集する技能 《収集・選択》

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』 (2)情報を読み取る技能 《読図》

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』 (3)情報をまとめる技能 《作図・描図》

発達段階	ア. 地図の要素別					イ. 図の種類別		
	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図>	<2. 主題図>	<3. 地形図>
小学校3年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」
小学校4年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」
小学校5年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」
小学校5～6年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」
小学校6年生	「北を上にして、地図を書くことができる。」	「地図の符号を意味する前に、適切な位置に地図の符号をかき入れることができる。」	「1:10000の縮尺の地図から、1:50000の縮尺の地図を作成することができる。」	「等高線の図から、地形図を作成することができる。」	「等積図法を用いて、面積の比較を行うことができる。」	「地域の主要な事象をあらわした地図を作成することができる。」	「特定の事象を主題として、地図を作成することができる。」	「地形図の等高線を読み取り、地形図を作成することができる。」

「～できる」とともに「～を知る」も位置付ける

地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)

○ 3～6年生の各学年に分け4枚で構成

○ 縦軸は小学校社会科の学習指導要領に示された当該学年の学習内容

→ 複数の社会事象が学習対象となるものは区分して示す
(例) 3年生内容(1)身近な地域や市区町村の様子

○ 横軸は「地理的な見方・考え方」を構成する視点として示された5つの地理学の基本概念

→ 小学校社会科の学習指導要領で学習内容として示されたもののほか、「選択する地域・事例によって扱わない場合があるもの」や「学習指導要領には記されていないが発展的な扱いができるもの」を記号を付した上で位置付ける

地図から習得できる「地理的な見方・考え方」(マトリクス表B)

学年	① 位置や分布	② 場所	③ 人間と自然環境との相互依存関係	④ 空間的相互依存作用	⑤ 地域
小学校3年生	身近な地域を認識し、特定の建物や交通手段の位置や分布を地図上で見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。
小学校4年生	身近な地域を認識し、特定の建物や交通手段、川や山などの位置や分布を地図上で見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。
小学校5年生	身近な地域を認識し、特定の建物や交通手段、川や山などの位置や分布を地図上で見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。
小学校6年生	身近な地域を認識し、特定の建物や交通手段、川や山などの位置や分布を地図上で見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、川や山などの自然環境を、地図から見ることが出来る。

「地理的な見方・考え方」に繋がっていく認識内容を「～を地図から捉える」という形で具体的に示す

地理的な社会事象を取り扱う単元以外でも地図を活用できる場面があることが伝わる点でも効果が

本研究の成果

- 「地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(マトリクス表A)について
 - 一般的に「技能」と捉えられている「何ができるか」だけでなく、「できるために何を知ることが必要か」までを視野に入れて作成しており、技能の基盤に存在する「知ること(分かっているべきこと)」の存在や指導における重要性を、具体的な形で示していること
- 「地図から習得できる『地理的な見方・考え方』(マトリクス表B)について
 - 発表者らによる先行研究(植田・米田, 2020; 2021や小谷, 2020など)では特定の単元でしか具体を示してこなかったが、本研究では小学校社会科全体を視野に入れ、かつ具体性を伴う形で、社会認識形成における地図活用の有効性を示していること
 - 小学校社会科における、中学校以降の段階で育成する「地理的な見方・考え方」に繋がっていく認識内容を具体的に示していること
 - 学校教育現場で先生方が実際の指導で生かせるものとなるよう、小学校社会科の学習指導要領に示された各学年の学習内容をベースとして、単元レベルでの学習指導をイメージしやすい形で示していること

今後の展望

- 中学校地理的分野における一覧表(マトリクス表)の作成による小・中学校間の系統性の検討(→さらに高等学校に関する検討も視野に研究を進める)

マトリクス表Bの例(「地図から習得できる『地理的な見方・考え方』」の3年生内容(1)の部分を抜粋)

学年	① 位置や分布	② 場所	③ 人間と自然環境との相互依存関係	④ 空間的相互依存作用	⑤ 地域
小学校3年生	身近な地域を認識し、特定の建物や交通手段の位置や分布を地図上で見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。	身近な地域の特色を、地図から見ることが出来る。

参考文献

植田真夕子・米田豊(2020): 社会認識形成を意図した社会科入門期における地図指導の理論—小学校第3学年「身近な地域や市の様子」の学習に着目して—。兵庫教育大学学校教育学研究, 33, pp.61-70.

植田真夕子・米田豊(2021): 社会認識形成を意図した社会科入門期における地図指導の理論(Ⅱ)—小学校第4学年「自然災害から人々を守る活動」の学習に着目して—。兵庫教育大学学校教育学研究, 34, pp.209-218.

国立教育政策研究所(2018a): 平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント, https://www.nier.go.jp/kaihatu/shido_h24/01h24_25/h24_25csr_point.pdf

国立教育政策研究所(2018b): 平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント, https://www.nier.go.jp/kaihatu/shido_h25/02h25/h25csr_point.pdf

国立教育政策研究所(2018c): 平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント, https://www.nier.go.jp/kaihatu/shido_h27/h27/h27csr_point.pdf

小谷恵津子(2012): 地図を用いた社会科学学習で形成する方法概念と内容概念。新地理, 60(3), pp.1-18.

小谷恵津子(2017): スケール認識の形成を視点とした小学校地図学習の改善—縮尺指導の授業構成と学習内容の検討を通して—。新地理, 65(2), pp.1-18.

小谷恵津子(2020): 認識および表現の媒体としての機能に着目した地図活用による小学校社会科防災学習における学びの深まり。社会系教科教育研究, 32, pp.11-20.

文部科学省(2018a): 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 日本文教出版, 217p.

文部科学省(2018b): 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 東洋館出版社, 237p.

文部科学省(2019): 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』, 東洋館出版社, 451p.

分析した教科書

北俊夫・小原友行他99名(2020): 『新しい社会』, 東京書籍

大石学・小林宏己ほか49名(2020): 『小学社会』, 教育出版

池野範男・的場正美・安野功ほか123名(2020): 『小学社会』, 日本文教出版



概念形成に着目した地図活用能力の系統性

—小学校社会科における試案の作成—

小谷 恵津子 (玉川大学)・植田 真夕子 (愛知県津島市教育委員会)・(株)帝国書院研究室

1. 地図活用能力の育成をめぐる現状と課題

地図は、社会認識の形成やそれを基盤とした公民としての資質・能力の育成に大きな役割を果たすことができるという点で、社会科学学習において非常に重要な資料である。しかし、その一方で、国立教育政策研究所が平成24~27年度にかけて実施した「学習指導要領実施状況調査」では、小学校から高等学校までのいずれの学校段階でも、「課題があると考えられる事項」の一つとして資料や地図の活用に関する項目があげられており、学校教育現場における地図に関する学習やその活用能力の育成は、十分とは言えない状況も見られる。

そのようななか、平成29・30年改訂では学習指導要領やその解説に、地図活用能力を考えていく上で影響を及ぼすと考えられる次の3つの変化が見られた。

- ① 小学校社会科の学習指導要領解説に、「社会的な見方・考え方」は、小学校から高等学校までの学習を通して発展的に育成されるものであることと、地図は効果的に活用することにより、位置や空間的広がりに着目して社会的な事象を捉える見方・考え方を養うことができることが明記されたこと。
- ② 中学校社会科や高等学校の地理系科目の教科目標や学習指導要領解説に、「地理的な見方・考え方」を構成する視点（中学校地理的分野）や地理に関わる事象を捉える際や地理的な課題を考察する際の視点（地理総合、地理探究）の具体として、地理教育国際憲章による5つの地理学の基本概念（位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域）が示されたこと。
- ③ 参考資料という形ではあるものの、「社会的な事象等について調べまとめる技能」として、小学校から高等学校までを通して育成する技能を情報の収集、読み取り、まとめる3つに整理し、具体例が示されたこと。表の形式でまとめられたこれら3つの技能の具体例の中には、地図の活用に関するものが多数位置付けられている。

このように、学習指導要領やその解説に、「社会的な見方・考え方」やその発展である「地理的な見方・考え方」を養う上で地図の活用が有効であることが明記された一方で、学校教育現場では、地名や場所を調べるとどまるなど地図や地図帳が十分に活用されないままに終わっている例も散見される。また、「社会的な事象等について調べまとめる技能」の一覧表は、小学校から高等学校までをひとまとめにした形で示されているため、各学校段階での実際の授業に落とし込んで考える手がかりとしては、十分とは言えないものになっている。

2. 本研究の目的と地図活用能力育成における概念形成への着目

以上の現状と課題をふまえ、地図活用能力を育成するためには、児童・生徒に具体的に何を指導すればよいかを検討し、それらを学校段階や学年に着目して整理し、学校教育現場での授業づくりに生かしていただけるものとして示すことが必要であると考え、本研究の目的とした。そこで、まず小学校社会科の4年間における地図活用能力育成のための指導内容を検討し、学年と学習内容に基づいて系統性を示す一覧表の作成を試みた。

この目的を達するにあたり、地図活用能力育成に必要な学習内容とその系統を検討する際に概念の形成に着目している点、本研究の大きな特徴である。地図を活用する能力は一般的に「技能」と捉えられており、前述の「社会的な事象等について調べまとめる技能」も、その捉えに基づいて示されたものである。しかし、地図から情報を収集したり読み取ったりする際も、あるいは地図に情報をまとめる際も、そうしたことが「できる」ようになるためには「何が分かっている必要があるのか」にも着目して指導することが欠かせない（小谷、2017）。しかし、学習指導要領や先行研究では、地図に関する学習やその活用を一貫して「技能の育成」としてのみ捉えており、概念形成の視点から課題の解決が考えられてきていない。そこで本研究では、技能として「何ができるか」だけにとどまらず、「それ

ができるためには何が分かっているのか」という、技能の基盤に存在する方法に関する概念形成にも着目して、指導内容やその系統性を検討した。

また、地図を活用することによって、児童・生徒は地理学の基本概念を、学習の際に取り上げられた具体的な地域やそこで展開されている社会事象と結び付いた形で理解して身につけていくことができる（小谷、2012）。こうしたいわば内容に関する概念は、これまで社会科学学習を通して習得する「説明的知識」や「概念的知識」としては捉えられているものの、その習得に地図の活用がどのように寄与しているかという点には着目されてこなかった。本研究では、中学校以降での「地理的な見方・考え方」につながる概念形成に着目して、小学校社会科の学習指導要領に示された各学年の学習内容と関連付けながら、地図の活用を通して形成される概念の内容やその系統性を検討した。これにより、各学習内容を学ぶ際に、地図の活用を通してどの地理学の基本概念につながる知識が習得できるのか、また、そのようにして形成された内容に関する概念を他の学習内容や学年のどこで活用していけるのかが可視化され、明確に意識しながら指導することが可能になる。

3. 2種類のマトリクス表の作成

地図活用能力育成に必要な学習内容とその系統の検討を整理して示した一覧表として、「地図から習得できる『社会的な事象等について調べまとめる技能』」（以下、マトリクス表A）と「地図から習得できる『地理的な見方・考え方』」（以下、マトリクス表B）の2種類を作成した。いずれの一覧表についても作成にあたっては、地図や地図帳を活用した学習指導に苦手意識を持っていたり、社会科の学習指導の経験そのものが浅かったりする先生方にも使っていただきやすいものとなることを念頭に置いて、整理の仕方や表現を検討した。

マトリクス表Aは、「社会的な事象等について調べまとめる技能」で示されている3つの技能の分類に即して、「情報を収集する技能《収集・選択》」、「情報を読み取る技能《読図》」、「情報をまとめる技能《作図・描図》」の3枚の表で構成することとした。各表とも縦軸を小学校の各学年とし、小学校社会科の学習指導要領に示された各学年の学習内容や現行3社の教科書記述分析の結果をふまえ、複数の学年からなる段階も設定した。横軸は、一般図を構成する要素に基づく「ア. 地図の要素別」と、それぞれの技能を育成するにあたって学習指導で用いる地図の種類に基づく「イ. 図の種類別」の2つで構成し、具体的な指導内容を検討した。

マトリクス表Bは、3~6年生の各学年に分けて4枚で構成した。縦軸に小学校社会科の学習指導要領に示された当該学年の学習内容を位置付け、横軸に中学校社会科の学習指導要領解説で「地理的な見方・考え方」を構成する視点として示された5つの地理学の基本概念を位置付けた。表中に示した項目は、小学校社会科の学習指導要領で学習内容として示されたもののほか、「選択する地域・事例によって扱わない場合があるもの」や「学習指導要領には記されていないが発展的な扱いができるもの」も、記号を付した上で位置付けた。

4. 本研究の成果と今後の展望

本研究の成果は次の通りである。

マトリクス表Aについては、一般的に「技能」と捉えられている「何ができるか」だけでなく、「できるために何を知ることが必要か」までを視野に入れて作成しており、技能の基盤に存在する「知ること（分かっているべきこと）」の存在や指導における重要性を、具体的な形で示していることである。

マトリクス表Bについては、①小学校社会科全体を視野に入れ、かつ具体性を伴う形で、社会認識形成における地図活用の有効性を示していること、②小学校社会科における、中学校以降の段階で育成する「地理的な見方・考え方」につながっていく認識内容を具体的に示していること、③学校教育現場で先生方が実際の指導で生かせるものとなるよう、小学校社会科の学習指導要領に示された各学年の学習内容をベースとして、単元レベルでの学習指導をイメージしやすい形で示していること、の3点である。

今後は、中学校地理的分野における一覧表（マトリクス表）の作成による小・中学校間の系統性の検討を行うとともに、さらに高等学校に関する検討も視野に研究を進めていく。

参考文献

- 小谷恵津子 (2012)：地図を用いた社会科学学習で形成する方法概念と内容概念. 新地理, 60(3), pp.1-18.
- 小谷恵津子 (2017)：スケール認識の形成を視点とした小学校地図学習の改善—縮尺指導の授業構成と学習内容の検討を通して—. 新地理, 65(2), pp.1-18.

※ この文書は、日本地理教育学会第72回大会の発表要旨に当日の発表内容を加えて加筆・修正し、作成したものである。

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』（1）情報を収集する技能 《収集・選択》

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

発達段階	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<2. 主題図> テーマがしぼられた地図	<3. 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
小学校 3年生	・学校の周りを、方位を確認しながら探検することができる。	・学校の周りを、今いる場所を地図で確かめながら探検することができる。	・学校の周りを、土地の広さやものの長さに注目して探検することができる。	・学校の周りを、土地の高さに注目して探検することができる。		・地図帳には、地域の全体像をあらわした地図、テーマがしぼられた地図、統計、図表などが載っていることを知る。	・ふだんよく買い物している商店はどこか、聞き取り調査を行うことができる。	
	・正しい方位は、方位磁針を使って調べることができることを知る。(理科との関連)	・学校の周りを、土地の使い方、建物の様子、交通の様子に注目して探検することができる。				・学校の周りにある建物や土地利用の様子について、探検などの調査によって情報を収集することができる。	・生産物の産地について、聞き取り調査を行うことができる。	
	・地域の生産や販売の仕事を、方位や位置などを確かめながら見学・調査することができる。	・知りたい情報の記号に着目して、地図を地図帳から選択することができる。				・市町村の様子がわかる地図を収集することができる。	・主な生産物の産地についての情報が載っているページを、地図帳から見つけることができる。	
						・交通網の広がりについて、知りたい地域が載っているページを地図帳から見つけることができる。	・消防設備の種類や設置場所を探検で確認したり、それらがわかる地図を収集したりすることができる。	
小学校 3~4 年生							・私たちの暮らしを支える施設や関連機関の位置が分かる地図を、収集したり、地図帳から探したりすることができる。	
							・地域の観光マップなど、調べたいテーマに関わりのある地図を収集することができる。	
小学校 4年生			・知りたい情報が読み取れる縮尺の地図を、地図帳から選択することができる。			・県の様子がわかる地図を収集したり、地図帳から探したりすることができる。	・世の中にはさまざまな表現の地図(行政区分図、地勢図、土地利用図など)があることを知る。	
							・災害予測や避難経路などがわかるハザードマップを、収集することができる。	
小学校 5年生						・日本の国土の様子について、知りたい地域が載っているページを地図帳から見つけることができる。	・農産物・畜産物・水産物の主要な産地がわかる地図を、地図帳から探すことができる。	
							・漁港や空港の位置がわかる地図を、地図帳から探すことができる。	
							・工業地帯や工業地域の分布がわかる地図を、地図帳から探すことができる。	
							・原料の生産地がわかる地図を収集したり、地図帳から探したりすることができる。	
小学校 5~6 年生								
小学校 6年生						・日本の歴史上の知りたいできごとが載っているページを、地図帳から見つけることができる。	・遺跡や文化財などの位置がわかる地図を収集したり、地図帳から探したりすることができる。	
						・日本とつながりの深い国が載っているページを、地図帳から見つけることができる。		

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

発達段階	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<2. 主題図> テーマがしぼられた地図	<3. 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
小学校 3年生	・正しい方向を表すため、「左右」ではなく「方位」が使われていることを知る。	・地図は、現実世界を真上から見て平面で示したものであることを知る。	・地図は、実際の距離を縮めて描かれていることを知る。	・地図では土地の高さは、面の色で示されることを知る。		・地図から、地名や記号などを探して読み取ることができる。	・地図から、地域の生産物の出荷先や、商店の商品の仕入れ先など、他地域とのつながりを読み取ることができる。	
	・方位には、東西南北の4方位があることを知る。	・地図は、現実世界を記号でわかりやすく置き換えたものであることを知る。	・縮尺が変わると、地図に表される詳細さが異なることを知る。	・等高線は、同じ高さの場所を線で結ぶことで、高さを平面上に表す工夫であることを知る。		・市の形を、地図から大まかに読み取ることができる。	・地図から、地域の安全を守る施設の位置や、関係機関相互の協力関係を読み取ることができる。	
	・自分が立っている場所を中心(基準)に、方位を読み取ることができる。	・その記号を「地図記号」と呼ぶことを知る。	・縮尺が変わっても、共通して見られる要素があることを知る。	・上空から見た高さの表現である等高線から、視点を転換して横から見た土地の起伏の様子を読み取ることができる。		・市のおおよその高さや、それらの広がり、川が流れている方向を、地図の色から読み取ることができる。		
	・教室の中での4方位を体感し、それぞれの方位にあるものを読み取ることができる。	・地図には必ず「地図記号の説明」(凡例)があることを知る。		・同じ高さの等高線をたどることができる。		・市の土地利用やその広がりを、地図の色から読み取ることができる。		
	・学校を中心に、4方位にあるものを読み取ることができる。	・「地図記号の説明」(凡例)と照らし合わせて、地図から地域の様子を読み取ることができる。		・おおよその陸の高さと海の深さを読み取ることができる。		・市の交通網や、その行き先を、指でたどって読み取ることができる。		
	・地図に示されたものの位置関係を、4方位を使って読み取ることができる。	・地図は現実にあるもの全部ではなく、必要な物だけを選択して示してあることを知る。		・川が流れている方向を、海との位置関係や地図の色を見て読み取ることができる。		・市のおもな産業を、農産物や工業製品の記号から読み取ることができる。		
	・地図は「北が上」が原則であることを知る。	・地図記号は、建物や施設に関わるもの、土地利用に関わるもの、交通に関わるものなどに分類されることを知る。				・市の昔と今の地図を比較して、土地利用や交通網、市の範囲などの移り変わりを読み取ることができる。		
	・地図が「北が上」でない場合は、北をさすしるし(方位記号)が入っていることを知る。	・国名・首都名・県名・県庁所在地名は赤字で示されるなど、色も記号の一部であることを知る。						
		・さまざまな地図記号があることを、その由来とともに知る。						
		・記号は、イメージがわかりやすい表現が用いられていることを知る。(水系には青を用いるなど)						
		・記号は、行政界、建物の用途など現実には見えない物を示すことにも用いられていることを知る。						
		・地図の色は、土地の利用を表している場合もあることを知る。						
		・絵地図とは、方位や目印、道の様子などを絵で描いた地図であることを知る。						
		・紙の地図には、さくいん記号が掲載されていることを知る。						
	・さくいんを元に、地名を探することができる。							
	・川をたどって、源流や河口がどこかを、読み取ることができる。							
	・ある記号が多く集まっているところを、地図から読み取ることができる。							
小学校 3~4 年生	・4方位をさらに細分した8方位があることを知る。		・距離のものさしがあることを知る。				・図形表現図を、図形が大きいところ、集まっているところに着目して読み取ることができる。	
	・地図に示されたものの位置関係を、8方位を使って読み取ることができる。		・地図上の距離を、距離のものさしを使って読み取ることができる。					
	・現実の世界で、8方位それぞれの方位にあるものを読み取ることができる。		・地図を活用し、2箇所以上の距離を比較して、距離の違いを読み取ることができる。					

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(2) 情報を読み取る技能 《読図》

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

発達段階	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<2. 主題図> テーマがしぼられた地図	<3. 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
小学校 4年生	・方位を用いて、県の位置を読み取ることができる。	・地図の色は、行政区分や統計情報を表している場合もあることを知る。	・距離のものさしが、「地図上の〇cmが実際の◇m」を表していることを知る。	・等高線と色分けで成り立つ、等高段彩のしくみを知る。		・県の地形を、海岸線の形や陸の高さ、山の標高、川の分布などから読み取ることができる。	・産物の原料や製品の移動の流線図から、移動の向きを読み取ることができる。	
			・縮尺が変わると、地図上の長さや広さの表し方が変わることを知る。	・等高線を見て、その場所の高さがどれくらいか、読み取ることができる。		・県の産業や、商品の輸送手段を、絵記号や土地利用の色、交通機関の分布から読み取ることができる。	・統計地図を凡例と照らし合わせて、地域の特徴や分布の傾向を読み取ることができる。	
				・等高段彩表現の地図から、地形を読み取ることができる。		・47都道府県の特徴を、県名や位置、県の形、特産物に着目して、読み取ることができる。	・浄水場から家庭に水が届けられる経路、家庭で使った水が処理される経路を、地図から読み取ることができる。	
				・等高段彩の地図と断面図とを照らし合わせることができる。		・水源やダムから浄水場へ水が届けられる経路を、地図から読み取ることができる。	・ハザードマップから、自然災害の危険が大きい場所や避難できる場所を読み取ることができる。	
				・等高線の粗密は、斜面の傾斜の緩急を表していることを知る。		・標高や地形を示した地図から、洪水などの自然災害が発生しやすい場所や地域を読み取ることができる。	・県内の昔と今の地図を比較して、地域の発展に尽くした先人の働きに関連したことがらについて、読み取ることができる。	
				・等高段彩の地図から、平野や盆地、山地などの地形を読み取ることができる。		・県内の地域ごとの自然環境や産業、人々の活動の特色を、地図から読み取ることができる。		
小学校 5年生	・地球儀上で、テープを用いて方位を読み取る方法を知る。		・地球儀とテープを使って、世界の2点間のおおよその距離を読み取ることができる。	・等高段彩の地図から、0mより低い陸地を読み取ることができる。	・地球儀と世界地図の違いと、それぞれの特色を知る。	・日本のおもな山脈、平野、川、湖などの地形の分布を読み取ることができる。	・降水量や桜の開花時期の等値線図から、日本国内の地域差を読み取ることができる。	
						・日本の食料生産がさかんな地域について、絵記号の分布や地形・交通網との関わりなどを、地図から読み取ることができる。	・農産物・畜産物・水産物の主要な産地を、地図から読み取ることができる。	
						・日本の工業生産がさかんな地域について、絵記号の分布や交通網・地形との関わりなどを、地図から読み取ることができる。	・漁港や空港の位置を、地図から読み取ることができる。	
						・日本国内の農産物や原料、工業製品の輸送手段を、交通機関の分布から読み取ることができる。	・工業地域や工業地帯の分布について、地図から読み取ることができる。	
						・外国から日本へ資源を運ぶ船のおもな経路を、地図から読み取ることができる。	・日本にとってのおもな原料や製品の貿易相手国を、流線図から読み取ることができる。	
						・日本と外国がどのように関わりをもっているのか、地図上のイラストなどから読み取ることができる。	・貿易の流線図の太さから、移動量の多少を読み取ることができる。	
小学校 5~6 年生							・日本と世界がどのような交通網で結ばれているのか、地図から経路を読み取ることができる。	
小学校 6年生	・日本の近隣にある国々が、日本から見てどちらの方位に位置するか、読み取ることができる。					・世界のおもな国の位置や範囲、地形などを、地図や地球儀から読み取ることができる。	・歴史上のできごとの位置や広がりを、地図から読み取ることができる。	
							・歴史上のことがらに関わる地域間のつながりを、地図から読み取ることができる。	

地図から習得できる『社会的事象等について調べまとめる技能』(3) 情報をまとめる技能 《作図・描図》

ア. 地図の要素別

イ. 図の種類別

発達段階	<A 方位>	<B 記号>	<C 縮尺>	<D 高さ>	<E 図法>	<1. 一般図> 地域の全体像をあらわした地図	<2. 主題図> テーマがしぼられた地図	<3. 略地図> 伝えたい事柄を大まかにあらわした地図
小学校 3年生	・北を上にして、地図を描くことができる。	・地域の様子を表すために、適切な位置に地図記号をかきこむことができる。	・およその「距離のものさし」を入れることができる。	・示された線に沿って彩色して、土地の高さを表す地図を作成することができる。		・学校の周りの様子について、絵記号を使った地図を作成することができる。	・学校の周りの商店について、シールを使って訪問客の多さを表した地図を作成することができる。	・家から学校までの道について、略地図を作成することができる。
	・北が上でない地図に、方位記号を入れることができる。	・地図に、記号の説明(凡例)をつけることができる。	・実際の距離を意識して、学校の周りの様子を描くことができる。			・自分たちの市の様子について、地図記号を使った地図を作成することができる。	・生産物の出荷先や商店の商品の仕入れ先など他地域とのつながりを、位置や方位に留意して白地図にまとめることができる。	・示したい範囲を、1枚の紙におさまるように全体を見渡してから、地図を作成することができる。
		・移動するものは、記号化できないことを知る。					・地域のガイドマップを作成することができる。	・示したいものの他に、目印になるものを記入して、わかりやすく略地図を作成することができる。
		・地図に建物を描く場合は、建物の役割に応じた地図記号を使うとわかりやすいことを知る。					・校内(まち)の消防設備マップを作成することができる。	
		・範囲が狭いものは、点の記号で示すとわかりやすいことを知る。					・必要な情報を記入して安全マップを作成することができる。	
		・長く連なるものは、線の記号で示すとわかりやすいことを知る。					・地域の安全を守る施設の位置や、関係機関相互の協力関係を、白地図にまとめることができる。	
		・広がりをもつものは、面の記号で示すとわかりやすいことを知る。						
		・土地の使われ方や土地の様子を、色で塗り分けてわかりやすく描くことができる。						
		・名称を伝えたいものは、記号に文字を添えるとよいことを知る。						
		・重要なものは、目立つ表現にすることができる。						
	・目立つ表現には、大きく示す、太く示す、目立つ色で示すなどがあることを知る。							
小学校 3~4 年生								・シンプルな線を用いて、自分の市や県の略地図を作成することができる。
小学校 4年生						・トレーシングペーパーを活用して地図から写し取り、県の白地図を作成することができる。	・47都道府県の名称と位置を、日本の白地図にまとめることができる。	
						・地図記号を活用して、土地利用や産業、交通網など、県の様子を表す地図を作成することができる。		
小学校 5年生							・食料生産の様子や、それと貿易・運輸の関わりを、白地図にまとめることができる。	
							・工業生産の様子や、それと貿易・運輸の関わりを、白地図にまとめることができる。	
小学校 5~6 年生								
小学校 6年生							・歴史上のできごとの位置や広がりなどを、白地図にまとめることができる。	

地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《小学校3年生》

次の印を付したものは、必修ではない項目。
 * 選択する地域・事例によって、扱わない場合があるもの。
 ★ 学習指導要領には記されていないが、発展的な扱いができるもの。

概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
学習内容	・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
(1)-1 身近な地域の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域を観察して、特徴的な建物や交通、土地の使い方を確認し、地図上での位置を捉える。 * ・ 身近な地域にある川や森林などの自然を観察し、地図上での位置を捉える。 * ・ 身近な地域にある土地の低いところや高いところを観察し、地図上での位置を捉える。 * ・ 身近な地域における着目したものや場所などの間の位置関係を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域の特徴を、特徴的な建物や交通、土地の使い方に着目して地図から捉える。 * ・ 身近な地域の特徴を、川や森林などの自然環境に着目して地図から捉える。 * ・ 身近な地域の特徴を、土地の高低に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> * ・ 川や森林などを人々がどのように活用しているかを観察し、その様子を地図から捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った様々な分布や特徴などに基づき、身近な地域の特色を大まかに捉える。
(1)-2 市の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの市町村(以下「市」とする)の形や都道府県(以下「県」とする)における位置を地図から捉える。 ★ ・ 市内にある自分と関わりのあるものや場所の位置を地図から捉える。 ・ 市と隣接する市町村について、位置や名称、位置関係を地図から捉える。 ・ 市の地形について、土地の低いところや高いところ、海や川、山などの位置や分布を地図から捉える。 ・ 田や畑・森林、住宅や商店・工場などに着目し、市内の土地利用の広がりや分布を地図から捉える。 ・ 市内の道路や鉄道などの位置や名称、交通の広がりを地図から捉える。 ・ 市において、着目したものや場所などの間の位置関係を地図から捉える。 ★ ・ 自分の暮らす市とつながりのある地域や国の位置や名称を地図から捉える。 ・ 市内の公共施設の位置や名称、分布を地図から捉える。 ・ 市に古くから残る建造物の位置や名称を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の特徴を、土地の高低や、海や川との位置関係に着目して地図から捉える。 ・ 市の特徴を、土地利用の様子に着目して地図から捉える。 ・ 市の特徴を、交通の広がりや分布に着目して地図から捉える。 ・ 市の特徴を、古くから残る建造物の分布に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> * ・ 田や畑・森林や住宅が多く見られる理由を、土地の高さなどと関連付けて地図から捉える。 * ・ 工場が多く見られる理由を、海や川との位置関係、土地の高さなどと関連付けて地図から捉える。 ・ 道路や交通機関が集まっている理由を、海や川との位置関係、土地の高さなどと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 自分の暮らす市と道路網や交通機関などにより結びついている地域を地図から捉える。 * ・ 商店が交通の便利など集まっている理由を、他地域との間のヒトの流れと関連付けて、地図から捉える。 * ・ 工場が交通の便利など集まっている理由を、他地域との間のモノの流れと関連付けて、地図から捉える。 ・ 道路や交通機関が集まる場所が見られる理由を、市内や他地域との間のヒトやモノの流れと関連付けて、地図から捉える。 ・ 公共施設が交通の便利など集まっている理由を、市内のヒトの流れと関連付けて、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った様々な分布や特徴などに基づき、市の特色を大まかに捉える。
(2)-1 地域の生産の仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取りあげた農産物や工業製品の市内における産地の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 取りあげた農産物の出荷先の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 取りあげた林産物や水産物の市内における産地や出荷先の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 取りあげた工業製品の原料の産地や製品の出荷先の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 取りあげた工業製品を生産する工場働く人が、通勤してくる場所の位置や分布を地図から捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 取りあげた農産物や工業製品の生産が市内でさかんな理由を、自然環境(土地の高さや海や川との位置関係など)と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> * ・ 取りあげた農産物や工業製品の生産が市内でさかんな理由を、国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 地図から読み取った位置や分布、関連などに基づき、生産の仕事から見た市の特色を総合的に捉える。
(2)-2 地域の販売の仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族などがよく利用する商店の位置を、シールを貼って作った地図から捉える。 ・ 取り上げた商店で売られている商品の産地の位置を地図から捉え、外国の場合は合わせて国旗も確認する。 ・ 取り上げた商店に来店した人がどこからきているのか、その分布を地図から捉える。 			<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 市内の商店でさまざまな商品が売られている理由を、国内の他地域や外国との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 市内の商店が交通の便利など集まっている理由を、他地域との間のヒトの流れと関連付けて、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 地図から読み取った位置や分布、関連などに基づき、販売の仕事から見た市の特色を総合的に捉える。
(3) 地域の安全を守る働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校内の消防施設や市内の消防署、警察署の位置を、地図から捉える。 ★ ・ 身近な地域で危険が予想されるところの位置や分布を安全マップから捉える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 市で火災や事故が発生した際、周辺の市町村の消防署や警察署と連携・協力しながら対応していることを、地図から捉える。 	
(4) 市の様子の移り変わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの時代の市の範囲を昔の地図から捉える。 ・ それぞれの時代の市の交通の広がりや分布、公共施設の位置を、昔の地図から捉える。 ・ それぞれの時代の市の土地利用の広がりや分布、人口の分布を、昔の地図から捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 市の昔の地図を用いて、その時代に見られた土地利用や人口分布の理由を、自然環境と関連付けて捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 市の昔の地図を用いて、その時代に見られた土地利用や人口分布の理由を、他地域との間のヒトやモノの流れと関連付けて捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔と現在の地図を比較して、地形や土地利用、交通網、行政区分などの変化に着目し、それぞれの時代の市の特色や移り変わりの様子を捉える。

地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《小学校4年生》

次の印を付したものは、必修ではない項目。
 * 選択する地域・事例によって、扱わない場合があるもの。
 ★ 学習指導要領には記されていないが、発展的な扱いができるもの。

概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
学習内容	・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
(1) 都道府県の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの都道府県(以下「県」とする)の形や日本における位置を地図から捉える。 ・ 県と隣接する都道府県について、位置や名称、位置関係を地図から捉える。 ・ 県内の地形(おもな山地や平地、半島、川、湖や沼、海など)の位置や広がりを地図から捉える。 ・ 県内の土地利用の広がりや、主要な産業、特色ある産業の分布を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の特徴を、地形に着目して地図から捉える。 ・ 県の特徴を、土地利用の様子やさかんな産業に着目して地図から捉える。 ・ 県の特徴を、気候に着目して地図から捉える。 ・ 県の特徴を交通網の広がりに着目して地図から捉える。 ・ 県の特徴を、おもな都市の位置や分布に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 県内の土地利用の広がりや主要な産業や特色ある産業がみられる理由を、地形と関連付けて地図から捉える。 ★ 県内の交通網の分布の理由を、地形と関連付けて地図から捉える。 ★ 県内の主要な都市がその場所に位置している理由を、地形と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 県と道路網や交通機関などにより結びついている地域を地図から捉える。 ★ 県内の主な産業や特色ある産業がさかんな理由を、県内外の間のヒトやモノの流れと関連付けて地図から捉える。 ★ 交通網が集まる地域が見られる理由を、県内の人口分布や県内外の間のヒトやモノの流れと関連付けて地図から捉える。 ★ 県内の主な都市が交通や産業の中心となっている理由を、県内外の間のヒトやモノの流れと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った分布や特徴、関連などを総合して、県の地理的環境の概要を捉える。
(2)-1 人々の健康を支える事業	<ul style="list-style-type: none"> * 学校内の水に関わる施設の位置を地図から捉える。 ・ 自分の暮らす市に水、電気、ガスなどを供給する施設(水源林・ダム・浄水場、発電所など)の位置や分布、供給されるルートを地図から捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> * 暮らしに欠かせない水の供給を、水を貯える自然の働きと関連付けて地図から捉える。 * 水を供給する施設の位置を、川の流域や土地の高さと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の市町村が、水・電気・ガスの供給に関して、連携・協力して対応していることを、地図から捉える。 	
(2)-2 人々の生活環境を支える事業	<ul style="list-style-type: none"> * 学校内のごみに関わる施設の位置を地図から捉える。 ・ 自分の暮らす市から出る廃棄物の処理・再利用施設の位置や担当する範囲、処理後のゆくえなどを、地図から捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> * 下水を処理する施設の位置を、川の流域や土地の高さと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の市町村が廃棄物の処理に関して連携・協力して対応していることを、地図から捉える。 	
(3) 自然災害から人々を守る活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県で過去に自然災害(地震、津波、風水害、火山災害、雪害など)が発生した場所の位置や被害を受けた地域の広がりを、地図から捉える。 ・ 地域の防災施設や避難施設の位置をハザードマップなどの地図から捉える。 ★ 自然災害が発生した際に危険な箇所の位置や分布を、ハザードマップなどの地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 自分の暮らす地域の特徴を、発生が想定されている自然災害に着目して、ハザードマップなどの地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然災害の発生原因や防災対策を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 ★ 自然災害が発生した際の避難や救助方法を、地形と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が暮らす地域で自然災害が発生した際に、国や県、周辺の市町村と連携・協力して対応していることを、地図から捉える。 ★ 大規模自然災害が発生した際は、全国各地の自治体から派遣された人々も復旧活動に参加していることを、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 地図から読み取った位置や分布、特徴、関連などに基づき、自然災害の発生や防災対策の様子から見た市や県の特徴を総合的に捉える。
(4) 県内の伝統や文化、先人の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の古くから伝わる年中行事や文化財の位置を地図から捉える。 ★ 開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人による功績に関連するものや場所の位置や分布を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が暮らす県の特徴を、伝統や文化に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 用水路の開削や堤防の改修、農地の開拓などに関する先人の功績を、地形と関連付けて地図から捉える。 * 産業の発展に尽くした先人の功績を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 文化財や年中行事の由来を、他地域や外国との結びつきと関連付けて地図から捉える。 	
(5) 県内の特色ある地域の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内で伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域の位置や分布を地図から捉える。 ・ 県内で国際交流に取り組んでいる地域の位置や分布を地図から捉える。 ・ 市や県と姉妹都市や友好都市の提携をしている外国の都市を調べてその位置を地図から捉え、あわせて国旗も確認する。 ・ 県内で地域の資源(自然や伝統的な文化)を保護・活用している地域の位置や分布を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 県内の特色ある地域の特徴を、地場産業を活かしたまちづくりや観光に着目して地図から捉える。 ★ 県内の特色ある地域の特徴を、国際交流を活かしたまちづくりや観光に着目して地図から捉える。 ★ 姉妹都市(友好都市)の特徴を、市や県との共通点に着目して地図から捉える。 ★ 県内の特色ある地域の特徴を、地域の資源(自然や伝統的な文化)の保護や活用に着目して地図から捉える。 ・ 県内の特色ある各地域の特徴を、自分が暮らす市との共通点や相違点に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 地場産業がさかんな理由を、地域の自然環境(地形や気候など)と関連付けて地図から捉える。 * 自然のよさを活かしたまちづくりが行われている理由を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 地場産業がさかんな理由を、国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 各地域における地図から読み取った分布や特徴、関連などに基づき、県の特徴を総合的に捉える。

地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《小学校5年生》

次の印を付したものは、必修ではない項目。
 * 選択する地域・事例によって、扱わない場合があるもの。
 ★ 学習指導要領には記されていないが、発展的な扱いができるもの。

概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
学習内容	・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
(1) 我が国の国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の六大陸と三海洋の名称と位置や広がり地図から捉える。 ・ 各大陸にある主な国の位置を地図から捉え、あわせて国旗も確認する。 ★ ・ 主な国の特産物や建物、物語や音楽の舞台の位置を、地図から捉える。 ★ ・ 共通した国旗の特徴をもつ国の分布を、地図から捉える。 ・ 各大陸にある主な国と日本との位置関係を、地図や地球儀から捉える。 ・ 日本の地球上の位置（北半球にあり、ユーラシア大陸の東方に位置していること）を、地図や地球儀から捉える。 ・ 日本の絶対的な位置を、緯度経度を参照しながら、地図や地球儀から捉える。 ・ 日本を構成する主な島の名称と位置を、地図から捉える。 ・ 日本の領土・領海や排他的経済水域の範囲、東西南北端の島の位置を、地図から捉える。 ・ 日本の主な山地や山脈、平野、川や湖、島や半島などの位置や分布を地図から捉える。 ・ 日本における夏と冬による気温や降水量の分布の違いを地図から捉える。 ・ 日本における気温や降水量からみて類似した地域の分布を、地図から捉える。 ★ ・ 日本の台風の進路の分布を地図から捉える。 ・ 高い土地と低い土地、あたたかい土地と寒い土地など、地形や気候に特色がある土地の位置やさかんな産業の分布を、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 地球上の大陸と海洋の特徴を、位置関係に着目して地図から捉える。 ★ ・ 日本の位置の特徴を、主な国との位置関係に着目して地図や地球儀から捉える。 ★ ・ 日本の位置の特徴を、地球上の半球や大陸との位置に着目して地図や地球儀から捉える。 ★ ・ 日本の位置の特徴を、緯度と経度に着目して地図や地球儀から捉える。 ★ ・ 日本の国土の特徴を、海洋に囲まれ、多数の島から構成されていることに着目して地図から捉える。 ★ ・ 日本の国土の特徴を、領土・領海や排他的経済水域の範囲、東西南北端に着目して地図から捉える。 ★ ・ 日本の国土の特徴を、地形の分布に着目して地図から捉える。 ★ ・ 日本の国土の特徴を、季節による気候の変化に着目して地図から捉える。 ★ ・ 日本の国土の特徴を、気候の地域差（気温は南北、降水量はや太平洋側と日本海側など）に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に特色がある地域でさかんな産業を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 着目した地域で稲作がさかんな理由を、国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 川の上流部の森林保全の工夫を、漁業がさかんな下流の地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った生産地の分布や特徴、関連などに基づき、食料生産から見た日本の特色を総合的に捉える。
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本におけるおもな食料の生産地の位置や分布を地図から捉える。 ・ 日本における米のおもな生産地の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 日本における野菜、果物、畜産物のおもな生産地の位置や分布を地図から捉える。 * ・ 日本における水揚げ量が多い港や漁場の位置を地図から捉える。 * ・ 世界の200海里水域の範囲を地図から捉える。 ・ 日本の主な農産物の輸入相手国の位置を、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の国土の特徴を、食料生産(米、野菜、果物、畜産物、水産物など)の分布に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着目した地域で稲作がさかんな理由を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 * ・ 着目した地域で野菜、果物、畜産物の生産がさかんな理由を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 * ・ 着目した地域で水産物の水揚げ量が多い理由を、海流などの自然環境と関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 食料生産を持続的に続けるための環境保全の取り組みを、自然環境と関連付けて捉える。 ★ ・ 新しい技術の開発や工夫によって、これまで栽培が難しかった自然環境の地域へも生産が広がったことを、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 着目した地域で稲作がさかんな理由を、国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 * ・ 川の上流部の森林保全の工夫を、漁業がさかんな下流の地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った生産地の分布や特徴、関連などに基づき、食料生産から見た日本の特色を総合的に捉える。
(3) 我が国の工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本における工業がさかんな地域の位置や分布を地図から捉える。 ・ 取りあげた工業（金属、機械、化学、食品工業）がさかんな地域の位置や分布を地図から捉える。 ★ ・ 日本企業の主な海外工場の位置や分布を地図で捉える。 ・ 日本の工業製品の輸送に関わる交通網の広がりを地図から捉える。 ・ 日本のおもな輸入相手国や輸出相手国の位置や分布を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の国土の特徴を、工業生産(金属、機械、化学、食品工業など)の分布に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業がさかんな地域の位置や分布を自然環境(海、川、平野など)と関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 工業生産における環境保全の取り組みを自然環境と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 着目した地域で稲作がさかんな理由を、国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 鮮度を保って生産地から消費地へ届ける工夫を、高速道路網や航空輸送などによる国内外の他地域との結びつきと関連付けて地図から捉える。 * ・ 自動車工場の生産の工夫を、関連工場との位置と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図から読み取った工業が盛んな地域の位置や分布、特徴、関連などに基づき、工業生産から見た日本の特色を総合的に捉える。
(4) 我が国の産業と情報の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 放送や新聞の中にある天気予報や交通情報などの地図から、示された情報の位置や分布を捉える。 			<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 販売、運輸、観光、医療、福祉などでインターネットを利用して地域を超えた協力が行われていることを、地図から捉える。 	
(5) 我が国の国土の自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本で過去におきた自然災害(地震、津波、風水害、火山災害、雪害など)の位置や分布を地図から捉える。 ・ 日本で今後起こる被害の想定分布や、防災や減災のための施設や整備の位置を、ハザードマップなどから捉える。 ・ 日本の森林の分布から、国土に占める面積の割合が高いことを、地図から捉える。 ・ 日本で過去に大気汚染、水質汚濁などの公害が発生した地域の位置や分布を地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の国土の特徴を過去に大規模な自然災害が発生した場所の位置や分布に着目して地図から捉える。 ・ 日本の国土の特徴を、森林の分布に着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害が発生した理由を、地形や気候などの自然条件と関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 地震や火山災害が起こる場所を、プレートの境界と関連付けて地図から捉える。 ・ 自然災害を防ぐために国や県が行っている対策を、自然環境と関連付けて地図から捉える。 ★ ・ 環境保全の取り組みを、自然環境と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 大規模自然災害が発生した際は、全国各地や世界各国から支援に来た人々も復旧活動に参加していることを、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・ 地図から読み取った位置や分布、特徴、関連などに基づき、日本の自然災害の特色を総合的に捉える。

地図から習得できる『地理的な見方・考え方』《小学校6年生》

次の印を付したものは、必修ではない項目。
 * 選択する地域・事例によって、扱わない場合があるもの。
 ★ 学習指導要領には記されていないが、発展的な扱いができるもの。

概念	<① 位置や分布>	<② 場所>	<③ 人間と自然環境との相互依存関係>	<④ 空間的相互依存作用>	<⑤ 地域>
学習内容	・ 事物の位置や広がり、周囲の状況などを、地図から捉えることができる。	・ 着目する場所の特徴を、地図から捉えることができる。	・ 地図から自然環境の特徴を読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から複数の場所の結びつきを読み取り、人々の活動の様子と関連付けて捉えることができる。	・ 地図から読み取って見出した特色をもとに、着目する地域の全体像を捉えることができる。
(1) 我が国の政治の動き	<ul style="list-style-type: none"> * 国や地方公共団体が社会保障、自然災害からの復興、地域の開発や活性化のために行った取り組みの位置や分布を、地図から捉える。 ★ 国会議事堂や最高裁判所、内閣などの主な国の機関の位置を、地図から捉える。 				
(2) 我が国の歴史上の主な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の歴史上のできごとや文化財の位置や分布を、地図から捉える。 ・ 日本の文化の広がり(前方後円墳や国分寺など)や政治の中心地へ輸送される特産物の分布を、地図から捉える。 ・ 日本の歴史上のできごと(守護・地頭や戦国大名、親藩・譜代・外様の配置、参勤交代など)と政治の中心地との位置関係を、地図から捉える。 ・ 日本の歴史上のできごとの経路(遣隋使、正倉院の宝物、出島を通じた外国交易など)を、地図から捉える。 ・ 外国と関わる日本の歴史上のできごと(元寇、キリスト教の布教、黒船の来航)を、世界に視点を広げた地図から捉える。 ・ 外国との戦争(日清・日露・日中戦争、第二次世界大戦など)に関わる歴史上のできごとの位置(戦場や経路)や分布を、地図から捉える。 * 伊能忠敬が作成した地図の正確さを、位置や形に着目して、現在の地図と比較して捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史上のできごと(鎌倉幕府を置く位置など)の発生や分布の理由を、自然環境(山に囲まれた地形など)と関連付けて、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心地から地方への文化の広がり、地方から中心地への物の輸送、交通網整備を、中心勢力の支配の広がりに関連付けて地図から捉える。 ・ 歴史上のできごと(武士による政治の始まり、群雄割拠、政治の安定など)を、政治の中心地と地方の結びつきと関連付けて地図から捉える。 ・ 日本の文化の特色や変化(大陸文化の摂取、幕府の鎖国政策など)を、外国との結びつきや世界の動きと関連付けて地図から捉える。 ・ 歴史上のできごとの要因を、世界の動き(モンゴルの勢力拡大、ヨーロッパやアメリカの海外進出)と関連付けて地図から捉える。 ・ 戦争の被害を受けた場所(戦場、空襲を受けた都市など)を、戦争時の世界の動きと関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 時代の異なる地図を比較して、歴史的な事物の位置や分布、出来事やつながりの変遷などから見た日本の特色を総合的に捉える。
(3) グローバル化する世界と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済や文化などの面で日本とつながりが深い国の位置を、地図から捉え、あわせて国旗も確認する。 ・ 日本とつながりが深い国と日本の位置関係を、地図や地球儀から捉える。 ★ 国際的な交流のための催し(オリンピック・パラリンピックなど)が開催された都市の位置を、地図から捉える。 ★ 地球規模の課題(環境問題など)や世界の国々が抱えている課題(紛争など)が発生している地域の位置や分布を、地図から捉える。 ★ 国際連合の加盟国や課題解決に向けて連携・協力している国の位置や分布を、地図から捉える。 ・ 日本が国際協力や援助を行っている国の位置や分布を、地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とつながりの深い国の特徴を、国旗や特産物、建物、物語や音楽の舞台などに着目して地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とつながりが深い国の人々の暮らしや産業を、気候や地形の特色と関連付けて地図から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とつながりが深い国の人々の暮らしや産業を、日本や他の国との結びつきと関連付けて地図から捉える。 ★ 地図から読み取った分布や特徴などに基づき、地球規模の課題の解決に向けて世界の国々が協力して取り組んでいることを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 地図から読み取った分布や特徴などに基づき、日本とつながりの深い国々の特色を総合的に捉える。

日本地理教育学会 第72回大会 発表資料

概念形成に着目した地図活用能力の系統性

—小学校社会科における試案の作成—

教授用資料

印刷・発行 株式会社 帝国書院 2022年9月